

平成 24 年 3 月 1 日

パーキンソン病という病気をご存じですか？ 日本では、人口 10 万当たり患者数が 100～150 名と非常に少なく、「難病」の 1 つに指定されています。発症年齢は 50～65 歳に多く、高齢になるほど発症率が増加するため、高齢社会を迎えた我が国で問題となる疾患です。今回は、「パーキンソン病」についてお話ししたいと思います。

●パーキンソン病とは？

パーキンソン病は脳の運動を司る部分の神経が変性することにより、歩きにくい、安静時の震え、筋肉のこわばり、体のうごきにくさ、バランス感覚の低下を特徴とする運動障害があらわれる病気です。また、神経の変性が脳のほかの部分におよんだ場合、変性した脳部位によって様々な症状がみられます（幻覚・妄想や物忘れなど）。一般に、40 歳未満発症者は薬が効きやすく、運動に関係した症状が出やすいといわれています。一方、高齢者や認知機能障害のある方では、幻覚などの精神症状が出やすいと報告されています。



● どうして起こるの？

脳内では多くの神経細胞が集まって働くための集合体を作っています。このうち、中脳に存在する黒質という部分が何らかの原因で変性し、細胞が減少している事がパーキンソン病患者で確認されています。黒質の神経細胞は脳内の様々な場所へ向かって伸び、神経の繋ぎ目での連絡のやり取りにはドーパミンが使われていますが、神経細胞が減少した場合、ドーパミンが十分に作られず神経同士の連絡ができなくなります。

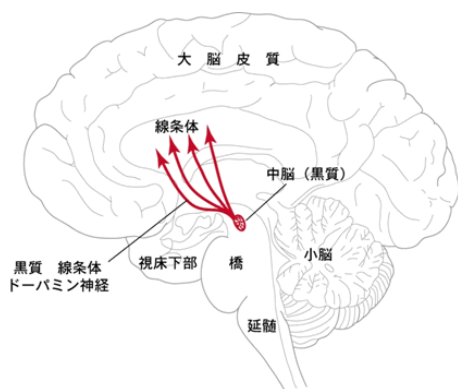
黒質の神経細胞は体の姿勢制御や運動機能などに関係していますので、黒質の異常により歩きにくい・手足が震えるなどの症状が出てくると考えられています。年齢の若い段階で発症した方の中には、遺伝子の異常がある方がいる事が報告されています。

●パーキンソン病 こんな症状も…

最近、パーキンソン病による運動異常が現れるかなり前から、便秘を訴える人が多いことがわかってきました。

さらに「匂い」を感じる機能の低下も注目されています。「匂いがわかりにくくなった」と訴えのほかに、「食事がおいしくない」とか「味がにぶった」という感覚の変化も、おいを感じる機能の変化による場合があります。

その他、うつ症状や睡眠障害（日中の過度の眠気や睡眠中の行動異常など）が、パーキンソン病との関係で注目されています。



●パーキンソン病の治療

現在のところ、病気の進行そのものを止める治療法は開発されていません。すべての治療法は、パーキンソン病による症状を改善するため、症状の程度や生活能力、職業などを考慮して開始されます。手術療法なども行われますが、今回は薬物療法について紹介します。

薬物治療には、低下したドーパミン神経の機能を補う薬を使用します。具体的には、以下の薬剤を、症状や合併症に応じて選択し、使用します。

L-Dopa 製剤

脳内でドーパミンに変換され、生理的なドーパミンによる情報伝達を助けます。

ネオドパゾール メネシット	生体内でドーパミンとなり、ドーパミンの不足を補う L-DOPA と、脳内でのドーパミンの分解を抑制して効果を増強させる成分を配合した薬剤です。
------------------	---

ドーパミン作動薬

神経の繋ぎ目の、ドーパミンの受け皿に直接結合し、ドーパミンの情報伝達を補います。

パーロデル ペルマックス カバサール	眠気の副作用は比較的少ないが、消化気象上は比較的多い。心臓弁膜症が報告されている。
ビ・シフロール ミラペックス LA レキップ (CR) ニュープロ (貼り薬)	消化器症状が少なく、心臓弁膜症は極めて少ない。突然の眠気が生じるため、車の運転をする人には勧められない。

その他

トレリーフ	ドーパミンができるのを促進し、ドーパミンの分解を弱く抑えます。
エフピー	生成したドーパミンが分解されるのを防ぎます。
シンメトレル	神経細胞からドーパミンが放出されるのを助けます。
コムタン	L-DOPA 製剤の分解をおさえます。
ドプス	すくみ足などの症状を改善します。

※幻覚・妄想、抑うつなどの精神症状が悪化した場合は抗精神病薬や抗うつ薬、認知症状みられた場合は抗認知症薬を用いることもあります。

wearing-off 現象について

パーキンソン病の進行に伴って、薬物療法を行っていても効果が短くなり、次の服薬の前に薬が切れる現象が起こります。この現象を wearing-off 現象といいます。wearing-off 現象がみられた場合、薬の量を増やす、同じ量でも少量ずつ服用回数を増やすなどの方法で対処する場合があります。最近では、従来より薬の作用時間を長くした薬剤も利用できるようになりました。

〈参考〉

- ・「今日の治療指針 2010」
- ・東海大学病院脳神経外科 HP <http://neurosurgery.med.u-tokai.ac.jp/edemiru/par/index.html>
- ・難病情報センター HP <http://www.nanbyou.or.jp/>